



平成19年度

決算状況を報告します

第29回養父市議会定例会において、平成19年度各会計の決算が認定されました。

平成19年度の市の会計は、一般会計と9特別会計、3企業会計で構成されています。ここでは、平成19年度の決算状況や財政状況などについてお知らせします。

一般会計決算

平成19年度の歳入合計は、186億8,116万円、歳出合計は180億1,427万円、前年度に比べて歳入で27億7,700万円の減(12・9%の減)、歳出で26億6,485万円の減(12・9%の減)となりました。結果、差し引き6億6,689万円の黒字決算となり、5億円を基金に積み立てて、残りの1億6,689万円は平成20年度に繰り越しました。歳入では、市の財政力に応じて国から交付される「地方交付税」や借入金である「市債」などの「依存財源」が69・3%を占めており、非常に足腰の弱い財政構造となっています。また、皆さんから納めていただいた「市税」は、28億5,731万円で歳入全体の15・3%を占め、平成18年度に比べて2億5,210万円の増

額(9・7%増)となっています。これは、税制改正により、国から地方に税源移譲が行われたためです。歳出では、過去の借入金の返済金である「公債費」が全体の25・4%を占めて最も多くなっており、平成18年度に比べて5億6,185万円の増額(14・0%増)となっています。これは、後年度の公債費負担を少しでも軽減させ、財政の健全化を図るために12億7,711万円の繰上償還(返済期限のきていない借金を任意で返済すること)をしたためです。その他の費用については、すべて平成18年度に比べて減少しています。特に「衛生費」は、10億5,324万円の減額(32・4%の減)となっています。これは、公立八鹿病院の建設が終わり、八鹿病院への建設負担金が大きく減額したことによるものです。

